

令和2年度 洛友会東京支部総会(資料)

令和二年6月28日(日)

於 Web 会議

議事次第

- 開会の辞
- 支部長挨拶
- [第一号議案] 令和元年度行事・活動報告
- [第二号議案] 令和元年度決算報告および監査報告
- [第三号議案] 令和2年度の役員／評議員／幹事
- 支部長退任の挨拶
(役員交代)
- 新支部長挨拶
- [第四号議案] 令和2年度行事・活動計画
- [第五号議案] 令和2年度予算計画
- [第六号議案] 米寿・喜寿のお祝い
- 閉会の辞

付録1: 洛友会東京支部会則【令和元年6月30日改正】

付録2: コロナ禍で困窮する学生へのご支援のお願い【京都大学同窓会事務局: 緊急要請】

洛友会東京支部ホームページ <http://www.rakuyukai.org/tokyo>

洛友会東京支部メールアドレス webmaster@rakuyukai.org

(ご参考)

京都大学アラムナイホームページ <http://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

1. 令和元年度行事・活動報告

1.1 支部総会, 講演会, 懇親会

令和元年6月30日(日)、学士会館にて、東京支部総会、本部総会、講演会及び懇親会を開催しました。本部より長尾会長をはじめとする8名、各支部より8名の来賓をお招きし、合計 70 名(うち東京支部会員 54 名)の参加をいただき、例年どおりの盛会となりました。

【支部総会】

支部総会は竹田総務幹事の司会により、午後2時に得井支部長による挨拶で始まりました。

まず、竹田総務幹事より平成 30 年度行事・活動報告、岩田会計幹事より決算報告が実施されました。活動報告の中では、昨年度新たに発足した 4 グループを含む 8 つの拡大クラス会が開催されたこと、課題である登録会員数の向上、若手活性化施策、全学同窓会活動への取り組み内容についても報告され、承認されました。

次に、令和元年度役員として、支部長 伊東康之(S53)、副支部長 伊藤八大(S54)、監事 尾上誠蔵(S55)、総務幹事 岩田元希(H12)、会計幹事 日比野勉(H13)、庶務幹事 増崎隆彦(H13)、若手交流会幹事 竹田真二(H11)の就任が承認されました。その後、得井前支部長から退任のご挨拶、伊東新支部長から就任のご挨拶がありました。

得井前支部長からは、洛友会東京支部活動にかかわった 3 年を振り返り、支部活動活性化へのご協力のお礼と今後の活動への期待、引き続き洛友会の発展に貢献したいことを述べられました。

伊東新支部長からは、引き続き支部活動活性化に取り組むこと、時代の変化に合わせた取り組みが必要であること、縦の繋がりでなく横の繋がりも活用する計画であることを今後の抱負として述べられました。

続いて、令和元年度行事・活動計画と予算計画、支部会則の改正について説明がありました。計画の説明の中では、若手活性化施策の一つとして新たな拡大クラス会の発足を目指すこと、卒業後間もない年次を対象とした新人歓迎会を計画していること、支出削減策の継続・強化内容についても説明され、承認されました。

支部会則の改正は、評議員任命の実態および拡大クラス会を活用した活性化を目的であることが説明され、承認されました。

最後に、令和元年度に米寿を迎えられた黒田悟弘様(S30)、喜寿を迎えられた田島孝様(S40)、秋田雄志様(S40)、松本慎二様(S40)のお名前が紹介され、大きな拍手とともに会場より祝意が評されました。



得井前支部長



伊東新支部長

【講演会】

本部総会を挟んだ後、「わたしの社長時代を振り返って」と題して、KDDI 株式会社 代表取締役会長の田中孝司様(S54)からご講演いただきました。

冒頭に、KDDI 株式会社の歴史と事業内容、移動体通信業界の変遷について説明がありました。移動体通信業界は事業者間でコスト構造に差が少なく、スケールメリットが強く働く業界であることの説明がありました。

次に、田中様の社長就任当初の課題認識とその後の主な取り組みについてのご説明がありました。就任された 2010 年当時はスマホシフトの遅れによる競争力低下が課題となっておりモメンタム回復に取り組まれたことや、社内の意識改革のため新しい経営理念の作成と定着化に取り組まれたことなどのご説明がありました。

その後、田中様が社長経験を通してと感じられたことを述べられました。入社以来様々な部署で勤務した経験や留学した経験が KDDI 株式会社という大きな会社の社長を務める上で役に立ったこと、特に UQ モバイルの社長として会社の立ち上げに関わった経験が重要だとの説明がありました。また、会社を運営する上では未来予想と意識改革が難しかったと述べられました。田中様の恩師からの教えとして、細かな変化にとらわれず大きな変化と兆候を捉えて繋げることで未来をはっきり見ることができると、人の脳の構造として例えば望みが叶うので、ストレスがあっても目標を高く設定することが大事との説明がありました。

最後に、これから始まる 5G 時代の 10 年はどこに向かうのかというお話がありました。5G の大容量通信・多接続・低遅延という 3 つの特徴の中で、新たなサービスにどのようにアプローチしていくのが重要であり、クラウドに集まるデータを使ったイノベーティブなサービスがキーであると述べられました。KDDI 株式会社の取り組みとして共創と勇気をキーワードとして挙げられ、パートナーシップを重要視していること、不透明な市場に対して戦略を立てた上で割り切った行動が重要であるとの説明がありました。



田中様



講演会の様子

【懇親会】

午後5時より恒例の懇親会に移りました。

懇親会は長尾会長のご挨拶と乾杯のご発声で始まりました。例年通り幅広い年齢層にわたる多彩な参加者の交流の場となり、料理を囲んで会員の方々の活発な意見交換が行われました。

その後、日比野新会計幹事の音頭により恒例の「琵琶湖周航の歌」を合唱し、伊藤新副支部長の締めめの挨拶で、閉会となりました。



長尾会長によるご挨拶



琵琶湖周航の歌の合唱

【報告】 会計幹事 日比野 勉(H13 年卒)

1. 2 秋の講演会

令和元年 11 月 18 日(月)、学士会館にて講演会を開催しました。

今年は宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所の國中均所長に「JAXA 宇宙科学研究所の太陽系宇宙探査～はやぶさ/はやぶさ2小惑星探査から深宇宙探査船団へ～」と題してご講演いただき、47 名の方にご参加いただきました。

國中所長は 1983 年に京都大学工学部を卒業、1988 年に東京大学工学系研究科を修了したのち、当時の文部省宇宙科学研究所に入所されました。2013 年に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のイオンエンジンの開発担当、現在運用中で令和 2 年に帰還予定の「はやぶさ 2」のプロジェクトマネージャ、宇宙探査イノベーションハブ長等をご経験されています。

冒頭では、國中所長が開発をしたイオンエンジンは、一般的な化学ロケットと比べて約 10 倍の効率を持つこと、開発当時先行していた欧米露と異なりマイクロ波加熱でイオンを生成するため長寿命であることを解説していただきました。

次に「はやぶさ」の運用と成果についてご説明いただきました。「はやぶさ」は打ち上げ後に史上最大級の太陽フレアを受けて発電能力が低下するというトラブルを経験しながら、2 年以上の行程を経て小惑星「イトカワ」にランデヴーしました。2 度の着陸・サンプル採集オペレーションの後、機体トラブルによる通信断絶、ビーコンの on/off 状態を利用した探査機状態の把握、通常と異なるイオンエンジン運用による通信復旧、復路で正常に動作するイオンエンジンが無くなった後の運用など、「はやぶさ」は多数のトラブルを乗り越えて地球に帰還しました。オーストラリアのウーメラ砂漠で回収したカプセルには宇宙由来に物質が含まれており、世界初のサンプルリターンに成功したことを解説していただきました。

「はやぶさ 2」で目標としている「リュウグウ」は、「イトカワ」と異なり水分の含有量が多い小惑星であり、「イトカワ」とは特性の異なるサンプルに入手が期待できる小惑星です。講演では、小惑星にクレーターを作成して地中の物質を露出させる様子や、生成したクレーターに「はやぶさ 2」が着陸する様子を画像や動画で説明していただきました。

最後に、今後の展望についてご説明を頂きました。現時点で、別の小惑星のサンプルリターン計画、金星・水星の探査計画、月の着陸ミッション、火星や木星の衛星からのサンプルリターン計画など 20 機以上の探査機計画があり、この計画は「深宇宙探査船団」と呼べるものです。JAXA では、定期的なサンプルリターンを実施することで、地球の水や有機物の由来、究極的には生命の起源を解明しようとしています。一方、太陽系

外の探査に目を向けると、他の恒星の周りに地球に似た岩石惑星が複数発見されています。これらの惑星の大気を分析することで、生命の起源が明らかになることが期待されています。
このように現在の宇宙科学は、生命の起源や惑星の成り立ちを明らかにしようとする目的で、太陽系内の宇宙探査と太陽系外の宇宙探査という異なる二つの分野の領域が一致しつつある、大変エキサイティングな状況であることを解説していただき、講演を終えられました。



國中均所長



講演会の様子

〔報告〕 会計幹事 日比野 勉(H13 年卒)

1. 3 見学会

本年度は電力中央研究所の横須賀地区を見学する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から延期といたしました。

見学会は実施されませんでした。見学の準備にあたりご協力いただいた電力中央研究所理事長の松浦昌則様(S53 卒)、総務グループの皆様に御礼申し上げます。

〔報告〕 会計幹事 日比野 勉(H13 卒)

1. 4 若手交流会

今年度から、東京支部エリアに就職した院卒 1 年目(H29 年学部卒)の歓迎会を企画・開催しました。

第一回目の新人歓迎会は、H27 年、H28 年の学年幹事を中心とする有志メンバーにて、会の企画・取りまとめを実施し、1 年目社員 6 名と、2・3 年目の有志メンバーに竹田若手交流会幹事、岩田総務幹事を加え、計 14 名の参加で、令和元年 10 月 25 日(金)19 時から開催しました。

参加者それぞれで自己紹介を行い、大学時代の研究室生活や就職先での仕事内容などを話題に会話が大いに盛り上がりしました。

会の途中には、東京支部の趣旨や主な行事について、竹田若手交流会幹事からご説明をいただきました。若手社員からの質問も飛び出し、東京支部の活動内容について、若手社員の理解が深まりました。

また、H29 年の学年幹事について、H29 年卒メンバー間で話し合いが行われ、福原真さんが選出されました。

今回は、初めての開催ということもあり、多数参加での開催は叶いませんでしたが、若手社員の親睦を深めることができたことに加え、東京支部の活動内容を理解できたことで、若手社員が今後の東京支部の活動への参加を考える良い機会となりました。

〔報告〕 小熊 優太(H27 卒)



また、京都大学基金室や京都大学同窓会等の開催する交流会・講演会(丸の内交流会等)および、科学技術国際交流センター(JISTEC)主催の CST インターナショナルサロンを積極活用して、若手活性化のための活動を実施しました。

＜京都大学 丸の内交流会＞

開催日	講師	テーマ
2019/9/24	京都大学高等研究院副院長・特別教授、名誉教授 本庶佑教授	獲得免疫の驚くべき幸運
2019/12/9	外務省 1 研修所長(大使) 片山和之様	上海から見た日中関係の現状と展望
2020/2/21	日本電信電話株式会社 代表取締役社長 澤田 純 様	新しい情報通信インフラ (コロナウィルス影響のため中止)

＜CST インターナショナルサロン＞

開催日	講演会・交流会
2019/10/9	第 22 回CSTインターナショナルサロン
2020/3/12	第 23 回CSTインターナショナルサロン(コロナウィルス影響のため中止)

〔報告〕 若手交流会幹事 竹田 真二(H11 卒)

1.5 趣味の会

名称	令和元年度幹事
囲碁会	向井 利典(S41卒)、喜多村 滋(S36卒)
麻雀会	船山 眞弘氏(S39修卒)
ゴルフ会	古澤 久具氏(S35卒)、山澤 穰氏(S38卒)、田崎 信氏(S44卒)
洛謡会	村上 薫氏(S36卒)
テニス会	山内 英樹氏(S44卒)、田中 喜男氏(S44卒)、成松 洋氏(S46卒)

入会のご希望、またはお問い合わせがございましたら、以下のアドレスにメールをご送付ください。

- ・囲碁会 igo@rakuyukai.org
- ・麻雀会 mahjong@rakuyukai.org
- ・ゴルフ会 golf@rakuyukai.org
- ・洛謡会 utai@rakuyukai.org (宝生流、観世流の謡会)
- ・テニス会 tennis@rakuyukai.org

●囲碁会活動報告

幹事 向井 利典(S41卒)、喜多村 滋(S36卒)

令和元年度は6月と10月の2回、新宿駅南口の「囲碁サロン・天元」で開催した。従来から年3回開催を原則としており、第三回目を令和2年2月16日に行う予定であったが、新型コロナウイルスによるリスク回避のため直前に中止を決定した。せっかく楽しみにしていた会員の方には申し訳なかったが、ご了解をいただいた。各回の参加者と成績優秀者は以下の通りである。

参加者数と成績:

各回の参加者数、成績優秀者(3戦全勝者)は以下の通り(卒年順、敬称略)

◇ 第一回(R1年6月9日)

参加者 13名

優秀者 なし。但し、2勝1敗の準優秀者が6名。

◇ 第二回(R1年10月6日)

参加者 16名

優秀者 宮内志人(S32年卒)、石黒公(S40卒)、大谷謙治(S41年卒)

例年の事であるが、残念ながら参加人数は漸次減少傾向にある。これは現在の常連参加者の平均年齢が70歳代後半となっており、S40年代後半以降卒の新規参入がほとんどない状況によるものと考えられるが、一般的な囲碁人口の比率からすれば、これは異常という他ない。新規参加が切望される次第である。

運営方式:

対局方式は各自の持点によるハンディキャップ制とし、午後の半日の時間内(原則12時半～18時)に対局した最初の3局の成績に応じて賞品(図書カード、またはQUOカード)を進呈している。時間の許せる人は4局目以降も対局し、結果は次回の持点に反映する方式をとっている。

囲碁会は「気軽に参加し、気楽に楽しむ」ことをモットーに、例会開催日直前での参加や取消しにもフレキシブルに対応し、集合・解散の時間も個々自由にできる、いわゆる「好きな時に来て好きな時に帰る」方式をとっている。現在の参加者の棋力は高段者から級位者まで広く分布しているが、持ち点制のハンディキャップ採用により、どんなに棋力の差があっても対等に対局でき、盤前に対座すれば親子孫ほどの年齢差に関係なく、世代を越えて和やかな雰囲気に対局を楽しむことができるので、興味のある方はどうぞ気軽にご参加いただきたい。なお、まだ仕事が多忙な世代も参加しやすいように日曜日に開催している。

以上(文責:向井記)

●麻雀会活動報告

幹事 船山真弘(S39修卒)

1 活動状況

令和元年度は、この4年間と同様に、3回の例会を計画しておりましたが、最後の例会が新型コロナウイルス拡散によりやむなく中止せざるを得なかったため、実施した例会は2回となりました。それら例会における順位賞受賞者及び、会員に人気のバラエティー賞受賞者は次のとおりでした。

例 会	順位賞		バラエティー賞	
第 114 回 R1.6.15(土) 渋谷雀荘(すずめ荘) 参加者 8 名	優 勝 準優勝 3 位	宮本氏(S48) 橋本氏(S33) 中田氏(S38)	大波賞 小波賞 原点賞 敢闘賞	渡邊氏(S28 旧) 井沢氏(S43) 渡邊氏(S28 旧)橋本氏(S33)
第 115 回 R1.9.21(土) 渋谷雀荘(すずめ荘) 参加者 4 名	優 勝 準優勝 3 位	廣川氏(S43) 船山氏(S39 修) 中田氏(S38)	大波賞 小波賞 原点賞 敢闘賞	廣川氏(S43) 井沢氏(S43) 船山氏(S39 修)中田氏(S38)
第 116 回 R2.3.2(土) 渋谷雀荘(すずめ荘)	中 止 (新型コロナウイルス感染拡大のため)			

2 会員の状況

会員数は一昨昨年度までの4年間は、20名で変わりませんでしたが、昨年度は会員1名が逝去したため19名と寂しくなりました。若い会員の入会が不変の課題です。

以上

●ゴルフ会活動報告

幹事 古澤久具(S35卒)、山澤 穰(S38卒)、田崎 信(S44卒)

開催日、開催場所、入賞者は以下のとおりです。

第138回 平成31年10月17日晴 本厚木CC 参加者10名、優勝:川本幹雄氏(34卒)、準優勝:村上 薫氏(36卒)、3位:田崎 信氏(44卒)

洛友会ゴルフは春秋年2回開催としており、春は桜の満開時期にあわせて開催日を選んでいきます。秋のゴルフは参加者が10名とここ10年で最低数となり、淋しいコンペとなりました。今年度は令和2年4月2日に春のコンペを予定していたのですが、新型コロナウイルスの蔓延で、首都圏の各知事から3月末の週末は外出を控えるよう要請が出る状況なので、洛友会ゴルフの参加者の大部分が80歳代であることを考え中止としました。

また、令和2年は暖冬で桜の開花が3月中旬にあり、4月2日では葉桜になっていたと思われます。幹事が3月27日にプレーした時は花吹雪を楽しみました。

若い人の参加が少なく参加者の高齢化が進んでいますが、ゴルフはかつてのブーム的盛況から全体のゴルフアーク数が減少しており、真にゴルフ愛好者の参加となっております。

少子高齢化社会となって高齢者の健康問題が盛んに話題となっておりますが、有酸素運動の最も身近な運動としてゴルフ場を歩くことと、脳の働きを活性化するスコアカードの利用、スコアだけでなく、パット数、使用クラブ、成功か失敗かなど、ゴルフのプレーを老化防止に活用されては如何でしょうか。このような記録をしておく練習にも活用できるのでゴルフ向上に有益です。ぜひお勧めします。

昭和40年以降の卒業生の参加が少なくなっているが、この年代では社交場がゴルフ場でなくなりゴルフに励む人が少なくなったのではないかと推測しています。台風被害などで年会費を上げる一流ゴルフ場も増えているので、ゴルフ人口が益々減少することが心配です。

以上

●洛謡会活動報告

幹事 村上 薫(S36卒)

謡会を年間 3 回計画していますが、3 回目は新型コロナウイルス騒ぎで 3 月 29 日の開催予定を 5 月 31 日に変更して実施予定です。

- 1) 第 163 回洛謡会 令和元年 7 月 15 日(月・祝) 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 蟻通(宝) 求塚(観) 頼政(宝) 東岸居士(観)
- 2) 第 164 回洛謡会 令和元年 11 月 30 日(土) 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 三井寺(宝) 実盛(観) 鉢木(宝) 葛城(観)
- 3) 第 165 回洛謡会 令和 2 年 5 月 31 日(土)予定 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 田村(宝) 胡蝶(観) 忠度(宝) 船橋(観)

宝生流と観世流で毎回 2 曲ずつ謡っています。曲により難しさもいろいろですが、舞台となった昔を偲びながら大声を出して、楽しんでおります。

謡のご経験のある方がおられましたら是非ご参加ください。

昭和 44 年に始まる伝統ある古典芸能の会です。以前は謡曲と言えば紳士の教養でしたが、大先輩が次々と亡くなり寂しい限りです。火を消さぬよう続けてゆきたいと思っています。

以上

●テニス会活動報告

幹事 山内 英樹(S44 卒)、田中 喜男(S44 卒)、成松 洋(S46 卒)(文責)

洛友会東京支部テニス会は、開始より半世紀近くの伝統を持ち、楽しく活動を継続してきました。昭和 50 年代からほぼ毎月 1 回の頻度で 週末あるいは祝祭日での例会を実施しています。令和元年度はこの目標を上回る 15 回が計画されましたが、雨天中止や参加者不足により以下に示すように実際の開催は 10 回となりました。

通常の活動拠点は、東京インター(用賀)近くにある砧公園や NHK 技術研究所に隣接の大蔵第二運動場です。ネット応募での抽選ですので、当選確率を上げるために他所への応募も試みましたが、地理的な不便さ等もあり、結果としてこの大蔵第二運動場に落ち着いています。令和元年度には、新規に参加表明をされた会員もおられ、引き続き更に同好の士が増加することを願っています。関東圏の広範囲の会員諸氏が参加されており、例えば、東は東京墨田区、西は横浜からの参加者が居られます。

毎回 2 時間、幅広い年代の皆さんでダブルスのゲームを行っています。しばしば奥様・ご友人の参加もあり、楽しく賑やかに健康な汗をかいています。テニスの後、時間が許せば懇親会を兼ねた昼食会を持つこともあります。

これからも楽しくテニス会を継続していきたいと願っています。少しでも体を動かすことに興味をお持ちの皆様、初心者の方も大歓迎ですし勿論腕に自信のある方も、ぜひ幹事までご一報くださるよう、お待ちしております。

回	開催日			参加人数	開催場所
1	令和元年	5 月 1 日	(水祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
2		6 月 16 日	(日)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場
3		7 月 15 日	(月祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
4		7 月 20 日	(土)	4 名	世田谷区大蔵第二運動場
5		8 月 4 日	(日)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
6		9 月 14 日	(土)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場
7		11 月 4 日	(月祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
8		12 月 1 日	(日)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
9	令和 2 年	2 月 23 日	(日)	7 名	世田谷区大蔵第二運動場
10		3 月 22 日	(日)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場

以上

1.6 拡大クラス会

名称	令和元年度 幹事
京極会[S35～S39卒]	藤江 恂治(S37)
洛粹会[S40～S44卒]	森田 浩三(S41)
洛談会[S45～S49卒]	杉山 守(S47)、蓮池 和夫(S48)
洛笑会[S50～S54卒]	伊藤 八大(S54)
喜洛会[S55～S59卒]	北條 博史(S56)
洛泡会[S60～H1卒]	田村 俊之(主、S60) 中村眞(副、S61)
洛成会[H2～H6卒]	中原 智勇(H2)
百万遍会[H7～H11卒]	山本 輝哉(H10)

●京極会[S35～S39卒]

幹事 藤江 恂治(S37)

京極会は2019年11月12日(火)東京神田の学士会館にて開催しました。例年通り講演会と昼食懇談会を午前11時～午後1時半に行い、出席者は12名でした。

講演(1時間)は、S37年卒馬場征彦君による「クルーズ船の旅(体験を踏まえて)」でした。内容は「最近、クルーズの旅や船についてTV・雑誌・新聞等でよく見かけられるようになり、クルーズ旅の人气が増大している。更には欧米発着のクルーズ旅に加えて多数の外国クルーズ船の参入により、日本発着コースも増えてきている。この背景を踏まえ若干の経験を通じてクルーズ旅の入門編として紹介したい」という趣旨でした。具体的には過去10年余の経験(欧米発着6コースとアジア発着1コース)を踏まえ、主にクルーズ旅のメリットや楽しみ方についてスライド写真による紹介があり、他の経験者からの補足もありました。

昼食懇談会では各自の近況報告を中心にして話が弾みました。

S35～39卒が母体の東京支部京極会ですが近年出席者数の減少が課題となっており、幹事としては今後の継続のためにも会員諸氏の奮っての参加を期待しています。

集合写真は学士会館玄関ホールにて(早く退出した3名を除く)。

ゴルフ会は第24回と第25回を開催しました。

第24回 2019年4月22日 津久井湖 GC しらかば→山吹コース 3組 10名参加

新ペリヤ、セルフプレー、優勝:山本英雄さん 準優勝:竹井大輔さん

主幹事 村上薫さん(36年)

第25回 2019年11月18日 津久井湖 GC 山吹→りんどうコース 3組 11名参加

新ペリヤ、セルフプレー、優勝:佐藤哲也さん 2位:竹中 理さん

主幹事 竹中理さん(37年)



以上

●洛粋会[S40～S44卒]

幹事 森田 浩三(S41)

令和元年の洛粋会は10月22日(即位の礼の祝日、火曜日)午前10時～13時(3時間)、学士会館で開催されました。今回の洛粋会は、41年次の千本倅生さん(株式会社レノバ会長)に、現在も現役で超ご多忙な中、講師を引き受けていただきました。開催日として即位の礼の日を選んだのは実は千本講師が可能な日がこの日のみだったという理由によるものです。即位の礼のパレードが15:30から皇居を出発して赤坂御所に向かうのでそれを考慮し、洛粋会の開催時間を午前中(10:00～13:00)にしました。

講演題目は「世界の潮流のSDGと日本の再生可能エネルギーの状況」で、講演内容はご自身の米国留学での経験からベンチャー精神の重要性に気づき、それを通信業界で実践した経歴と現在取り組んでいるSDG's(持続可能な開発目標)の一つであるエネルギー分野における再生可能エネルギーの開発の世界の現状について、プロジェクターで紹介されました。

質疑応答に移ると、講演内容に興味を持たれた参加者が多く、多数の質疑が続いたので、昼食をとりながら懇談会も兼ねました。

今回の催しには、洛粋会の前後の年次にもお知らせし総数26名(37年次:1名、40年次:7名、41年次:8名、42年次:3名、43年次:2名、44年次:5名)と即位の礼の祝日にもかかわらず多くの会員が参加し、皆さんが大変興味を持たれた様子で、本年度の担当幹事として喜んでおります。



以上

●洛談会[S45～S49卒]

幹事 杉山守(S47)、蓮池和夫(S48)

洛談会は2019年8月30日(金)、京都の庭園を思い起こさせる江東区の清澄庭園に集まり、国立極地研究所教授、南極越冬隊長などを歴任した山岸久雄氏(洛談会会員)による、以下の内容の講演会を開催した。

※清澄庭園:三菱財閥創業者の岩崎弥太郎が明治11年に社員の慰安と賓客接待を目的として、江戸時代の大名の下屋敷跡を整備したもの

- (1) 南極観測の歴史
- (2) 南極観測でのオゾン層破壊の発見と対応状況
- (3) 南極の大気観測、氷床コア解析から見た地球環境の変化
- (4) 南極観測隊の人達と昭和基地の暮らし

(1)では、1911年のアムンゼンによる南極点到達、白瀬中尉の大和雪原到達などの南極探検の歴史に始

まり、日本の南極観測は「宗谷」、「ふじ」、「しらせ」、「新しらせ」の4代の砕氷船を使い、60余年の実績が積み上げられてきたことが語られた。この間、昭和基地は拡充・整備され、観測面では①オーロラのロケット観測、②大量の隕石収集による太陽系惑星生成史の研究、③超長基線電波干渉計観測による大陸間距離の実測、④ドームふじ氷床深層掘削による過去の地球環境の研究等、多くの成果が挙げられたことが説明された。

(2)では、1982年、日本の南極観測隊がオゾン層の急激な減少を発見したことを端緒として、南極のオゾン層破壊(いわゆるオゾンホール)のメカニズムを解明する観測・研究が進み、また、オゾン層回復を図るための国際的な協議が重ねられたことが語られた。1992年のコペンハーゲン会議でのフロンガス規制強化が効き、数10年先には南極オゾン層の回復が期待できる状況にあることを伺った。

(3)では、ドームふじ氷床深層掘削で得られた氷床コアを解析することにより、過去数10万年にわたる地球大気のコ₂濃度と気温の変動を知ることができ、その変動には地球の軌道要素の周期成分である10万年(公転軌道の離心率)、4万年(地軸の傾き)、2万2千年(地軸の歳差運動)が含まれていることがわかった。これはユーゴの天文学者、ミランコビッチが提唱した学説(地球上の或る地点の太陽日射量は、地球の軌道要素の影響により周期的に変動し、これが氷期と間氷期が周期的に繰り返すきっかけを与えている)を実証する結果となっている。

また、氷床コアや昭和基地の大気観測の解析結果から、19世紀以降、大気のコ₂濃度上昇は加速の一途をたどっていることが示され、それは産業革命以降の化石燃料(石炭、石油)の使用と、それを使用する世界人口の急増がもたらしたものと説明された。

地球温暖化は海にも影響を及ぼしている。過去100年間に世界の平均海面は約12cm上昇しており、その主要原因は地球温暖化による海水の熱膨張やグリーンランド氷床の融解であるとされているが、今後100年間では南極氷床融解の影響が懸念されており、世界の平均海面は40cm以上上昇することが予測されているなど、種々のお話を伺った。

講演の後、清澄庭園を散策し、「東京都選定歴史的建造物」に指定されている涼亭では、抹茶と京和菓子で一服し、池の上に張り出した縁側から庭園を鑑賞しました。講演が行われた大正記念館に戻ると懇親会となり、歓談を楽しみました。

なお、今年度の開催にあたり、洛友会本部からも補助金を頂きました。

次回の幹事は成宮さん(S49卒)、逢坂さん(S45卒)です。



以上

●洛笑会[S50～S54卒]

幹事 伊藤 八大(S54)

3月初旬に計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、開催を見送りました。

以上

●喜洛会[S55～S59卒]

幹事 北條 博史(S56)

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、開催を見送りました。

以上

●洛泡会[S60～H1卒]

幹事 田村 俊之(S60)、中村 眞(S61)

昨年度発足した洛泡会の第2回会合を2019年11月27日にAliceAquaGardenTokyo 丸の内にて開催いたしました。今回は、お互いの情報をより共有できるよう、プロジェクトが利用できる会場を選択し、出席した25名全員に各自1～2枚程度のプレゼン資料を準備頂き、これまでの経歴や近況についての情報交換を実施しました。多岐にわたる大変興味深いお話が多数あり、なかなか経験できない大変楽しい会となりました。結成式で宣言した毎年の活動を今後も続けていくことを確認して、散会いたしました。



●洛成会[H2～H6卒]

幹事 中原 智勇(H2)

発足2年目の洛成会です。昨年の発足会で、最低でも年1回は活動しようと決めて今年度も新年会を兼ねて会合を計画していましたが、コロナウィルス騒動もあり実現できませんでした。コロナウィルス終息後、活動を再開いたします。

以上

●百万遍会[H7～H11卒]

幹事 山本 輝哉(H10)

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、開催を見送りました。

以上

1. 7 幹事会

日時： 令和元年5月26日 12:00～16:00

場所： 学士会館本館(2 階 203 会議室)

議題：

1. 平成30年度行事・活動報告

各幹事から活動報告がされました。複数の趣味の会幹事からは、会員の高齢化により参加人数の減少が課題であることが報告されました。

洛友会東京支部 HP において活動報告が見つからないとの指摘があり、今後は役員幹事がスピーディーに活動報告を掲載するとともに、掲載の場所・仕方を整理することと致しました。

2. 平成30年度決算報告

岩田会計幹事からの決算報告、伊藤監事からの監査報告があり、決算内容が承認されました。

3. 令和元年度役員／評議員／幹事

竹田総務幹事からの説明の後、高齢の学年幹事が不在となった場合の対応方法や評議員の選任方法について、以下のとおり議論／確認がされました。

・拡大クラス会が存在しない S34 以前卒について、逝去・辞退等により学年幹事が不在となった場合、当学年の学年幹事は空席とする。

・評議員については、支部役員経験者でなく支部長経験者から加える運用実態となっており、この実態に合わせて会則第7条を改正することを支部総会議案に加えることとする。

4. 令和元年度行事・活動計画

岩田会計幹事、伊藤監事から説明があり、行事・活動内容が承認されました。

前年度までの行事に加え、課題となっている若手会員活性化施策として、新たに9つ目の拡大クラス会(H.12-16 卒)の設置、新人(H.29 卒)歓迎会の企画・準備を行うことが説明されました。

拡大クラス会の新設にあたり、会則第15条にある条件(卒業後20年後)を改正することを支部総会議案に加えることとしました。

5. 令和元年度予算計画

岩田会計幹事から計画が説明され、承認されました。

また、洛友会本部より本部総会承認を経て支部の施策に対し特別予算を申請できる仕組みが開始され、会報への寄稿を条件として1件あたり5万円支給される予定との連絡があることが共有され、支部の会計での扱いについて議論されました。本施策は支部の会計には影響しないと考えられるものの、現時点では断定できないため、影響ある場合は令和元年度決算にて報告することとしました。

1. 8 第7回京都大学同窓会東京支部連絡会議および第5回交流会

日時： 平成31年4月25日 18:30～21:00

場所： 学士会館本館

京都大学同窓会との共催で、在京23同窓会中11同窓会15名が参加して表記連絡会議が開催されました。

同窓会代表幹事でもある徳賀副学長の来賓挨拶、初出席者自己紹介の後、出口連絡会議代表幹事から簡潔に経過報告、会計報告がなされた。議題1の代表幹事交代については幹事会での調整どおり、宇野輝氏(経済学部同窓会東京支部長)への交代が承認されました。議題2の講演会について実施結果が報告されたが、本同窓会東京支部連絡会として初のイベントであったこともあり、会計報告、参加者アンケートを元に今後への改善点が議論されました。

20時前からは交流会(懇親会)に移行し、記念撮影などを含め懇親が図られました。

報告：伊東副支部長(S53)

1.9 課題への取り組み報告

(1)登録会員(連絡先が把握できている会員)数向上について

まずは、会員に各種情報を届けるためのメールアドレスの把握・現行化のため、以下の取り組みを実施しました。

- ① 機会あるごとに、洛友会 HP における会員情報変更手順を記載することで、連絡先の現行化を依頼。
- ② 9 月目の拡大クラス会を企画。新型コロナウイルスの影響により、開催は見送りましたが、令和 2 年度内の開催を再度企画します。

今後も支部役員・学年幹事・拡大クラス会幹事が連携し、当会との関係が疎遠になりがちな(特に、若手)会員に対し、当支部主催のイベントはもちろんのこと、京都大学全学同窓会等が開催する各種イベントの案内等をより多くの会員に届けることとしたい。

(2)若手活性化施策について

卒業して間もない若手会員に、洛友会東京支部の存在そのもの、そして、その活動を認識してもらうため、東京支部エリアに就職した院卒 1 年目(H.29 学部卒)の歓迎会を開催。東京支部の紹介と活動への参加を促しました。今後も毎年継続することで、若手活性化を図ります。

(3)全学同窓会活動について

昨年度に引き続き、支部活動のあらゆる機会を捉え、京大アラムナイを紹介するとともに、「京都アカデミアフォーラム in 丸の内」で開催される『【京都大学】丸の内交流会』を案内してきました。

また、東京支部連絡会議に参加し、全学同窓会活動との連携をはかるとともに、その一環として、東京支部連絡会主催の講演会(令和 2 年 2 月 12 日、講師:本庶佑 京都大学高等研究院 副院長・特別教授)に協力し、洛友会東京支部からも 30 名弱の方にご参加いただくことができました。

(4)支出削減について

支出が過去数年の平均収入と同程度となることを目標に、以前からの削減策の継続に加え、追加の削減策としてハガキ送付費用の段階的削減(令和元年度支部総会で承認)を実施しております。

①令和元年度

- ・支部長以下の年次への往復ハガキ送付の廃止(ハガキ返信による実績がほぼ無いため)
 - ・支部長より上の年次への往復ハガキ送付を片道ハガキとし、返信は、メール or 電話とする。
- ※返信のメール／電話により令和2年度以降の連絡手段を確保する。

②令和2年度

- ・支部長より上の年次への片道ハガキ送付は、総会のみとする。

1.10 洛友会会報への寄稿

R1 年 7 月号 巻頭言 得井 慶昌 氏(S52 年卒)
R1 年 10 月号 一般寄稿 岩壁 冬樹 氏(S53 年卒)
R2 年 4 月号 一般寄稿 津田 敏隆 氏(S50 年卒)